

令和八年二月号

《第百五十八号》

しるへび

宗教法人岩國白蛇神社

〒740-0017

今津町六丁目4-2

☎ 30-3333

如月の祭典・行事案内



【月次祭】 九時半

十二日(水)

二十四日(火) 己巳

【節分祭】 十五時

三日(火)

【紀元祭】 九時半

十一日(祝) 建国記念の日

【祈年祭】 九時半 十七日(火)

【天長祭】 九時半

二十三日(祝) 天皇誕生日

【昭和天皇御製】《第二二四代》

「九州への旅」

霞立つ春の空にはめづらしと雪の残
れる富士の山見つ

みが「小河内ダム」

水涸れせる小河内のダム水底にひと
むら挙げて沈みしものを

(昭和三十六年)

【初詣】 丙午 元日～四日

昨年巳年の正月は想像を絶する数多の参詣
を経験しましたが、今年は例年(令和六年)



通りの初詣で
ありました。
それでも元日
～四日までの
参詣人数はお
よそ二万人で
あったと思ひ
ます。課題と
なつてゐる駐
車場も麻里布
小学校校庭と
旧消防署跡
地、それから
近くの空き地
もお借りする

ことができて、参詣者に不便をかけることは
無かつたのではないでせうか。また、総代さ
んや保存会関係の方々の案内係のご奉仕や臨
時巫女七名の奉仕、そして、何よりも近隣の
神社の宮司さんの助勤には大いに助けられま
した。感謝するばかりの今年の正月でありま
した。

また、元日早朝六時からの歳旦祭には総代
長さんと親娘三人の参列もあり、有り難くも
清々しい祭典となりました。

【推薦図書】

『異質の国ニッポン』

竹内久美子著 ビジネス社

千六百円＋税

「・・・特に第四章皇統に関する話題にな
っていることについて、疑問を抱いた方も

あるだろう。なぜ動物行動学を専門とする
者が、門外漢であるはずの皇統の問題につ
いて論ずるのか、と。実を言えば私は、動
物行動学を学ばずと以前から皇室のファ
ンであり、皇室ウオッチャーだった。そう
して歳を重ねれば重ねるほど、皇位が皇統
の男系男子で受け継がれてきた歴史ほど日
本国にとって大事なものは無い。日本国の
国体は皇室。日本国を成り立たせているも



のは皇室であると確信するようになった。
そして今から7、8年前からは動物行動学
都並行し、皇統を守るための言動活動をし
ているのである。・・・(略)

(後書きより)

『世界に誇るヤマト民族の叢智
日本人の魂の香り』

田尻成美 著 ビジネス社

一五四〇円

「・・・知れば知るほど日本は不思議
な国です。伝統的な日常生活を送るだけで
宇宙の真理や法則が『教えない教え』とし
て身に付けられるように仕組まれている国
なのです。このエッセイでは、日常の当た
り前すぎる生活の一コマからほの見える、

そんな『不思議の国・日本』の奥深い輝きをいくつかご紹介いたします。とはいえ、



肩ひじ張った論考ではないので気軽にお楽しみいただき、最後は私と一緒に『日本、最高!』と心の中で叫んでいただければ嬉しく思います。」(はじめにから)

本居宣長

たと『直毘霊』を読む(八)

譬へば、乱れたる世には、戦ひに慣らふゆゑに、おのづから名将多く出で来るが如く、国の風俗悪しくして、治まりがたきを、強ちに治めむとするから、世々にその術をさまざま思ひめぐらし、為ならひたるゆゑに、しか、賢き人どもも出で来つるなりけり。然るを、この聖人といふものは、神のごと、よにすぐれて、おのづからに奇しき徳ひあるものと思ふは、僻事なり。

(続く)

【現代語訳】

例えば、乱れてゐる世の中では、戦乱に馴れてゐるので、自然と名将が大勢出てくるやうに、国の風習が悪くて、治まりにくいのを無理に統治しようとするために、代々その手段をいろいろ考へ巡らし馴れてきてゐるために、そのやうに利発な人達も出てくるのであつた。さうであるが、この聖人といふものは、神のやうに非常に優れてゐて、自然と神秘的な威徳があるものと思ふのは誤りである。

本居宣長の主な著書

「古事記伝」・「古事記」の注釈書

「玉勝間」・随筆で、自身の思想や日常生活や友人との交流について述べたもの。

「紫文要領」・「源氏物語」の注釈書

「源氏物語玉の小櫛」・「源氏物語」の注釈書であり、「もののあわれ」を論じた書である。

「うひ山ぶみ」・思想や考へ方、歌論をまとめたもので、また、「もののあはれ」の日本人独自の美意識について述べてゐる。

「馭戎概言」(ぎよじゅうがいげん)・宣長による歴史書で、古代から秀吉の朝鮮出兵までの、日本と中国・朝鮮との交渉を古道の立場から論評した書。

「石上私淑言」「排蘆小船」

(いそのかみのささめごと
あしわけおぶね)・

歌論書で、宣長の初期の書である。



〈宣長の四十四歳の自画自賛像〉



「紀元祭・建国記念の日奉祝祭」
どなたでもご自由に参列できます。

・二月十一日(水) 九時半より

・祝詞奏上後に奉納舞
(二名の巫女による) があります。
・祭典終了後にはお神酒拝戴と撒饌の授与があります。

節分祭(豆まき神事)

二月三日(火)

午後三時より拝殿にて祭典、福豆の授与
三時十分から境内にて豆まき。

参加は自由です

